



NO. 180

響音

(ひびき)

発行 チャイルドラインハートコール・えひめ
〒790-0808 松山市若草町 8-2
松山市ボランティアセンター気付
Tel 089-923-9558 Fax 089-916-9710
E-mail heart-call@kke.biglobe.ne.jp
<https://heart-call-ehime.jimdofree.com/>
発行責任者 染川 まどか
発行者 染川 まどか
編集者 三好 久恵

第23期受け手ボランティア養成講座終了しました

10月22日より開催していました養成講座が12月3日で無事終了しました。残りながら受講生は23回の養成講座で最も少ない6名でした。5名の方が受け手登録をされました。今回は第1回「スマホ・ゲーム依存からの回復」古谷大志氏、第2回「子どもを性被害から守るためには」安達倭雅子氏、2回を公開講座として開催しました。

第1回公開講座 古谷大志氏 (NPO 法人 Gumi 代表理事)

テーマ 「スマホ・ゲーム依存からの回復」



依存とは、快感、多幸感、ワクワク感、楽しさなどを追い求める行動がエスカレートし、やがてその行動のコントロールができなくなる状態。

患者の91%が男性で、3~4年前からは女性も増えている。年齢は9歳~67歳平均年齢は24歳。ゲームをする時間は平均平日10時間、週末は14時間。ゲーム以外のことに割く時間がない状態で、不登校、失職、社会的孤立などに繋がっている。子どもが依存状態に陥りやすいのは、ゲーム能力が高く、体力があるため長時間続けられ、本能的な行動も多く、思春期の影響やストレス、プレッシャーの影響が考えられる。

大人に対して、ゲーム以外の背景にも目を向け、状況を整理することが必要、要因が一つに絞られていることはないが、要因ごとに偏りはみられることを理解すること。大切なことは、ネットやゲームに対する理解や価値観の幅を広げること、ゆるいつながりを作り一緒に考えてくれる人を増やすこと、心と環境両面にはたらきかける仕組みを作ること。

第2回公開講座 安達倭雅子氏 (電話相談員)

テーマ 「子どもを性被害から守るためには」



性被害から子どもを守る特效薬はないが、子どもの疑問や質問にうそをついたりしないで、正しく伝えることが大切。自分や相手の心と体を大切に思うことにつながる。

日本では昔から女性は性に対して無知な方がいいと言われてきて、いつの間にか本当に無知な人が多くなってきたと感じる。大人も性交や受精について正しい知識を持ち、ひとりひとりに性の決定権があると子どもに伝えなければいけない。「命を大切に」と言われるが、「命って何」と問いかけ、「命とは何か」から大人も子どもも理解していくことが大事。性教育は、命につながる、自分の体のことを詳しく知る、相手のことも大切に思う、とても重要な教育である。

【感想】

・初めて性教育を受けた気分です。アメリカの性教育の話はとても衝撃的でした。性の話をするためには性のことを良く知らなくては、あれだのそれだのと言っていてはいけなと、正しい知識を持ち正確な言葉で伝えなくてはと教えて頂きました。それと正しく聴くための正しい質問をするということ。何よりも女性が自立することが性教育への第一歩であるということ。楽しくて刺激的な研修会でした。今まで本当のことは何も知らずに適当にごまかしていた自分に気づかされました。もっと勉強しなくてはと改めて思いました。(K.K)

・大変勉強になりました。自分は女だし、男の子を育てたことないしで。男性の身体に関する知識が全然無かった事に改めて気付きました。「知識がないようでは受け手として座れない」と言われ、ハッとしました。あと性の電話への対応、チャイルドラインでは「相手をしない。」「すぐ切るように。」と教わりましたが。それが逆に性の電話を増やす要因になっていると聞き、とても驚きました。知識を持って対応することが、その子への性教育に繋がるんですね。少しずつ実践して行けたらなと思いました。貴重なお話を、ありがとうございました。(K.W)

・大変なエネルギーを頂きました。もうすぐ87歳とは.....、矍鑠(かくしゃく)とした行動には驚きました。ありがとうございました。研修を受けてですが、私たちは安達さんの域までには、まだまだの駆け出しです。目標として、向かって行くには？今、出来る事は？掛け手への質問に関しても、「必要な質問はどんどんしなければならぬ」とおっしゃっていましたが、そこは思い違いの無きよう、おさらいと言うか、スタッフで再度意見交換が出来れば、より研修が意味ある物になるように感じました。(K.O)

受け手のための継続研修



◆9月17日(日) 13:30~17:00 松山市男女共同参画推進センター3F 会議室2

講師：上野和子氏(特定非営利活動法人ひろしまチャイルドライン子どもステーション理事長)

テーマ 「チャイルドラインの受け手の役割～子どもを支援するとは～」

子どもが育つ環境は激変し、大人と子どものかかわりは希薄になっている。しかし、子どもの育ちは社会全体で支える必要があるし、大人も子どももひとりひとりが大事にされなければいけない。そんな中チャイルドラインは子どもの心の居場所を目指し、子どもの言葉と気持ちを受け止め、安心できる人や場所の存在となるため、その環境を創っている。

ひろしまチャイルドラインは「子どもに笑顔と安心を」を合言葉に日々活動しています。

【感想】

・チャイルドラインの活動の「特徴」ポイントを改めてしっかり確認することができました。子どもたちには教育の中で、安心して声を発してよいこと、4つの権利があることを伝えてほしいと思いました。(M.M)

・「その子が考える最善の利益」を保障することの大切さと難しさを考えさせられました。「子どもがこの話の主演」ということを意識していないと、どうしても「人生の先輩観」が出てしまいがち、思いを新たにまた電話の前に座ってみよう。(M.T)

・たとえ子どもからの電話がかかってこなくても、電話の前の居ますよという姿勢、そこに居ることが大事なのだというお話がとても心に残りました。(M.O)

◆10月29日(日)13:30~16:00 松山市男女共同参画推進センター 4F 視聴覚室 A

講師：安達倭雅子氏

テーマ 「もっとうまく子どもの話が聴けるように～性の電話への対応」

【感想】

・性の電話をどう撃退するかに終始していたが、そうではなく、受け手の対応で相手にそういう態度をとらせているということが非常にショックではあったが、自分の生き方や有り様を勉強していくことが対応に反映していくのだと思いました。(Y.T)

中四国エリア1週間24時間キャンペーンに参加しました

11月19日(日)16時~25日(土)21時までで、総着信数1502件の電話がありました。そのうち常設開設時間(16時~21時)以外の時間帯が530件ありました。



チャイルドライン ハートコール・えひめでは、140万枚のカードを愛媛県内すべての小中高校に配りました。結果としては、5件でした。4件が常設時間外でした。しかし、久しぶりの子どもの声が聴けました。愛媛県内の子どもからの電話が少ないことは、今後の広報の仕方も含めて考えていかななくてははいけません。

まず、「子どもが電話をかけない」という時代ではありますが、身近な子どもを見ていると、安心できる大人にはたくさん話します。むしろ「ねえ、ねえ、聞いて。私を見て。」が多いです。そう考えると、チャイルドラインが安心して話ができる場になっていないのではないかな。そんなことも考えながら、カードを配るだけでなく、子どもたちにチャイルドラインがどんなところか知ってもらえる手立てを考えていきたいと思いました。

第2にネット情報は早いということを感じました。子どもにも届きますが、大人にも届くということです。特に頻回の大人の妨害電話をかけている人たちは、チャイルドラインは格好のターゲットになっているのではないのでしょうか。このことを考えると、私たちの電話の対応の仕方が依存を生んでいる状態を考え、対策を講じる必要が大いにあると感じました。

24時間開設は、「子どもがかけたいと思ったときにかけられるチャイルドライン」を目指すための大きな問題提起になったと思います。昔のようにじゃんじゃん子どもから電話がかかってくるはずありません。むしろ子どもは「今を生きる」のです。「今、話したいときにチャイルドラインがある」ということが大事だと思いました。「毎日だけでなく1か月に1度でも24時間かけられるといいな」という声に私たちチャイルドラインはどうこたえていけるのでしょうか。(N.S)

【感想】

・常設時間以外では妨害が少なかったように思います。特に男による性の電話。妨害者は常設時間の既成概念にとらわれていて、不意の時間帯は本当の子どもが聴けたように思いました。これもキャンペーンを行ったことによる新しい発見でした。キャンペーンのような一定期間に集中して行うのは受け手も対応可能でとても有効と思いました (K.O)

・はじめて参加させて頂きました。私が入ったのは25日の19時~で、いつも繋がっている「5」がつく日。性の電話がやはり多かったけど、全体的にいつも通りかな?という印象でした。他の方が「昼間

の時間対応もとても大事」と感想を書かれていたようですが。私も同意見です。昼間、不登校の子とかは、学校に行けなかった罪悪感や1人で過ごす寂しさと戦っていると思います。夜はお家の方がいて、電話しづらい子もいると思います。でも、昼間の開設は難しいですね。(K.W)

・子どもたちが24時間キャンペーンが有ることを知りかけてきてくれてちゃんとカード見てくれてるんだな。良かった。かけてきてくれてありがとう、と思いました。(R.N)

・3年目。電話の件数の多さに感動しました。20日、通常当番の日は、2回線の為でしょうか、妨害電話が無かったお陰か、件数は少なかったです。当番の皆さん、非日常感もあり、いつもと違う顔も見られよかったです。(M.A)

・小学生が早朝から掛けてくれた様子から、寝られず悩んでいたのかなあと感じた。深く悩むと言うのは子どもも大人も変わらないのではないかと思った。(T.Y)

・早朝の当番でしたが、切羽詰まった電話でした。不登校や、子育ての悩みを背景に持つ時、朝の時間は子にとっても、親にとっても葛藤の時間であり、また次の一步を踏み出す貴重な時間であることに気づかされました。(M.M)

編 集 後 記

先日何かの本に「ボランティア活動は自分の心に向かってやるもので、結局は善意の押し付けと自己満足の活動である」と書かれていました。確かに、入り口は、誰かの役に立ちたい、社会のため、子どものため、自分の経験や知識を役に立たせたいであったとしても、結局は自分のため。役に立ちたいと思った瞬間から、ほめられたい、感謝してほしい気持ちがわいてくるし、役に立っていないと感じると、責められていると思ってしまう。ボランティア活動は自分のためであることを肝に銘じなければと思いました。少し気が楽になった気がしました。また来年もどうぞよろしく願いいたします。(染)



【お願い】

当団体の趣旨、活動内容にご賛同いただける方、興味をお持ちくださる皆様、ご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

<振込先>

・伊予銀行 緑台支店 普通預金 口座番号 1148220

口座名 ハートコール・えひめ会長 染川圓

・郵便為替 口座番号 01680-0-8867 口座名 ハートコール・えひめ



Merry Christmas and Happy New Year

